



88th Interim Business Report

第 **88** 期

# 中間報告書

2022年4月1日～2022年9月30日

*Passion for the Next Innovation*

～ 次なる革新への熱い思い ～



# Passion for the Next Innovation

～次なる革新への熱い思い～



## ご挨拶

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

第88期第2四半期連結累計期間の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

今年度は、3年計画として取り組んできた「中期経営計画2022 D-Active」の最終年度となり、その集大成として、達成や成就などの意味を持つ「Achievement」をキーワードに掲げ、目標達成に向けて鋭意推進中です。

また、地球温暖化による異常気象などが世界的な問題となっている昨今、洪水災害などを防ぐ大型排水ポンプをはじめ、温室効果ガス削減に貢献できる高効率製品の提案などを通じて、これまで同様に信頼できるDMWブランドの浸透を図ってまいります。

株主の皆様のご期待に沿うべく努力をいたす所存でございますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **村林秀晃**

## 当第2四半期連結累計期間における受注はどのような状況でしたか。

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、欧米ではウクライナ情勢の長期化等による物価上昇等を背景とした各国のインフレ圧力に対する金融引き締めにより、景気の減速感が強まりました。中国でもゼロコロナ政策の継続や不動産不況などの影響から停滞感の強い状況が続きました。

わが国経済については、行動制限の緩和に伴い、個人消費を中心に持ち直しの動きが見られたものの、新型コロナウイルス感染再拡大や物価上昇、世界経済の減速などから回復ペースは緩やかなものにとどまり、先行きは依然として不透明な状況が続きました。

このような中で、当第2四半期連結累計期間における受注額は、海外部門と国内民需部門は前年同期から増加しましたが、前年同期に大型案件の受注があった官需部門が減少したことなどから95億61百万円（前年同期比85.6%）となりました。

## 業績はいかがでしたか。

売上高については、海外部門が前年同期に比べて減少しましたが、前年度からの受注残が多かった官需部門が前年同期に比べて大幅に増加したことから87億73百万円（前年同期比115.7%）となりました。利益については、前年同期に比べて売上高が増加したことから、営業利益は81百万円（前年同期営業損失25百万円）、経常利益は1億55百万円（前年同期比246.8%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億17百万円（前年同期比222.5%）と増収増益となりました。

当社グループの売上高は、公共事業物件の割合が高いため連結会計年度末に集中する傾向があり、四半期別の業績には季節的変動があります。

通期の業績については、売上高235億円、営業利益23億50百万円、経常利益24億50百万円、親会社株主に帰属する当期純利益18億円を見込んでいます。

また当社グループは、従来から安定的な経営成績の確保と経営基盤の維持増強に努めています。株主の皆様へ安定的な配当をすることを基本に、当社グループで持つ経営資源を効果的に活用することとしております。これにより、一層収益力の向上と経営基盤の安定・強化並びに配当性向の向上に努めております。この方針を踏まえ、今年度の中間配当につきましては、1株につき50円とさせていただきます。

## 今後の取組みについてはどのようなものをお考えですか。

2022年度は前年度からの受注残が多く、一定の仕事量が確保できていることから、官需営業においては、

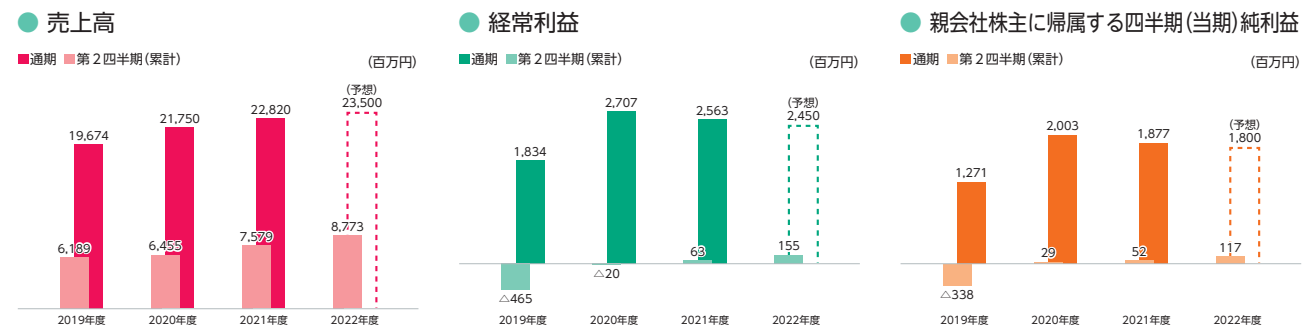
来年度のシェア拡大も見据えて、大都市圏の大型案件の受注に注力してまいります。国内民需営業については、整備や修理なども含む設備投資のニーズに応えるとともに、脱炭素社会に向けた新たな需要に目を向けた営業展開を図ります。海外営業については、円安環境を念頭に、インドをはじめとするオイル&ガス市場に加えて海水淡水化市場へのアプローチにも注力してまいります。

ポンプ・送風機市場で、グローバルニッチトップ企業を目指して、2020年度から取り組んできた3年計画の「中期経営計画 D-Active」は仕上げの年度となります。社員総活躍企業として、熱い思いで自らが牽引者となり、選ばれる企業へと変身してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2022年12月

## 連結財務ハイライト



※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前連結会計年度の期首から適用しており、2021年度以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した数値となっております。

# 「下水道展'22東京」への出展



2022年8月2日から4日間、当社は東京ビッグサイトにて開催された『くらしをつくる。未来をつくる。下水道展'22東京』に出展いたしました。同展示会は、公益社団法人日本下水道協会が主催するもので、34回目となる今回は315社・団体が出展し、全体で約30,400人が来場しました。

当社の出展コンセプトとしては、『持続可能な社会への貢献』とし、『SDGsの実現に向けた取組み』をテーマに、社会インフラの維持、発展に貢献している企業として電業社グループを大々的にPRしました。

展示品としては、省エネ、再エネ技術として、

- 下水処理場のばっ気ブロウの効率化を実現した  
「AM-Turbo® (新型ばっ気用多段ターボブロウ)」
- 世界最高レベルの回収効率を誇る  
「DeROs® (逆浸透膜海水淡水化設備用エネルギー回収装置)」
- 低コストで信頼性の高い  
「ポンプ逆転水車小水力発電システム」

などの他に、カーボンニュートラルの実現に向けた三島事業所での省エネ、創エネ等への取組み等を紹介しました。

今回の展示会はコロナ禍での開催となったことにより、タッチパネル機能付ディスプレイを用いた製品展示とし、ゆとりのあるスペースを確保することで、ご来場いただきました方々には、安心して閲覧いただける展示ブースを実現しました。

## ● 展示ブースの様子



# DMWインド社第3期工事開始



DMWインド社は、インドを含めた海外市場での高付加価値ポンプの受注拡大を目的に、第3期工事を開始しました。今回の工事では、3,500kW級高圧多段ポンプの一貫した生産設備とそれに伴う倉庫設備が増強されます。

現在、基礎工事が進行中で、2023年度から稼働予定となっております。成長を続けるインドのオイル&ガス市場でのモディ政権が推し進める「Make in India」へ対応しつつ、インドにおけるDMWブランドの更なる浸透に向けて取り組んでまいります。



現在の工事状況



完成予想図

# ハラスメント研修の実施



当社では、「電業社グループ行動指針」において、差別的な言動、ハラスメント等の人権を侵害する行為を行わない旨を定め、ハラスメント行為には、社内規程に基づき毅然とした対応を取ることとしています。また、階層別のハラスメント防止研修を毎年継続して行っており、今年度は三島事業所の若手社員を対象に実施しました。同研修では、ハラスメントの特徴や具体的な事例等を学ぶことで、何がハラスメントになるのか理解を深めると同時に、日頃行われている言動がハラスメントに該当していないか、振り返る良い機会となりました。

当社はこれからも職場におけるハラスメントを防止するための取組みを継続することにより、より働きやすい職場づくりを目指してまいります。



## 三島市少年少女発明クラブ工場見学



当社では、本年8月に「三島市少年少女発明クラブ」の子供たちの工場見学を実施しました。

同クラブは、子供たちが創作する喜びと発明くふうの楽しさを通して、創造性豊かな人間に育つことを願うとともに、学校週5日制による余暇を充実して過ごせるよう支援するため、行政と民間の協同により2005年6月に設立されました。

今回、当社の工場見学では、技術部門の社員が案内人となり当社の製品や技術についてわかりやすく説明を行いました。子供たちは、特に解析等に興味を持たれ積極的に質問していました。

当社は今後も地域貢献活動の一環として、子供たちを対象とした工場見学の受入を継続して実施してまいります。



## 防災食寄付



当社三島事業所では、災害時に備えて防災食を備蓄しています。

本年7月、消費期限の近づいている防災食1,700食を「三島市社会福祉協議会」、「NPO法人POPORO」、「フードバンクふじのくに」へ寄付いたしました。

寄付された防災食は、これらの団体を通じて、地域の支援が必要な方へ提供されます。

コロナ禍により生活困窮者など支援が必要な方も増加しており、各団体から謝意を受けました。

当社は今後も良き企業市民として、持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進し、社会貢献活動に取り組んでまいります。



## 株主総会資料の電子提供制度のお知らせ

## 会社法改正により株主総会資料の電子提供制度が始まります!

2023年3月以降の株主総会より、これまで郵送していた株主総会資料(招集ご通知)が原則ウェブ化されます。株主の皆様におかれましては、会社から通知書面にてご案内するウェブサイトへアクセスすることで、株主総会資料をご確認いただくことができます。当社では来年6月下旬開催予定の定時株主総会から適用となります。

今まで

議決権  
行使書

+

株主総会  
資料

株主総会資料を

紙で確認

これから

議決権  
行使書

+



通知書面

株主総会資料を

ウェブで確認



## インターネットのご利用が困難な株主様へ

2022年9月1日以降、書面で受領するためのお手続きが可能です。

(書面交付請求)

## Q 書面交付請求とは?

インターネットを利用することが困難な株主様を保護するためのお手続きです。お申し出いただいた株主様には株主総会資料を書面でお送りします。

なお、書面交付請求を行わなくても、URL等を記載した通知書面はお送りします。

## Q 書面交付請求の受付期限は?

株主総会の基準日までにお申し出が必要です。お手続きには2週間以上お時間がかかる場合がございますので、余裕をもってお手続きを行ってください。

## Q お手続き方法は?

証券会社にお申し出の場合は、保有銘柄の口座を開設している証券会社へお問い合わせください。株主名簿管理人にお申し出の場合は、書面での受領を希望される銘柄ごとに申出書面のご提出が必要です。

本件に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

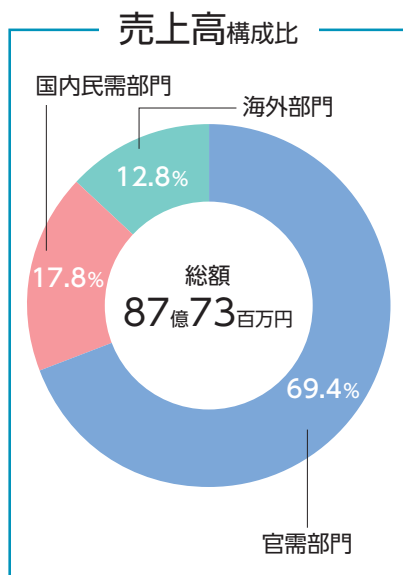
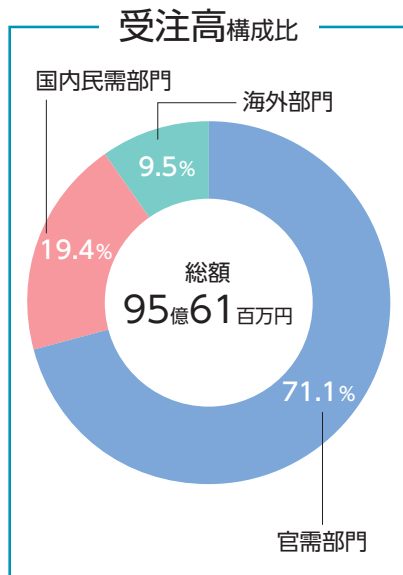
電子提供制度専用ダイヤル  0120-696-505

(受付時間: 土・日・祝日を除く平日9:00~17:00)

<https://www.tr.mufg.jp/daikou/denshi.html>

二次元コードはこちら▶





## 官需部門

受注高 **67億97百万円**  
(前年同期比85.6%)

売上高 **60億88百万円**  
(前年同期比131.5%)

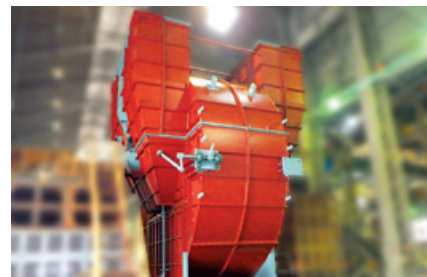


●排水機場向け排水ポンプ

## 国内民需部門

受注高 **18億59百万円**  
(前年同期比113.3%)

売上高 **15億58百万円**  
(前年同期比110.2%)



●発電所向け送風機

## 海外部門

受注高 **9億5百万円**  
(前年同期比114.7%)

売上高 **11億27百万円**  
(前年同期比73.3%)



●ガスプラント向け送風機

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 2022年9月30日現在	前期末 2022年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	20,339	24,892
固定資産	7,428	7,461
有形固定資産	4,045	3,937
無形固定資産	358	332
投資その他の資産	3,025	3,191
資産合計	27,768	32,354
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	5,185	9,587
固定負債	128	115
負債合計	5,313	9,703
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	21,793	21,963
資本金	810	810
資本剰余金	119	115
利益剰余金	21,883	22,061
自己株式	△1,018	△1,024
その他の包括利益累計額	661	688
純資産合計	22,455	22,651
負債純資産合計	27,768	32,354

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

電業社機械製作所

検索

詳細な情報につきましてはホームページをご覧ください。

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) 2022年4月1日から 2022年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2021年4月1日から 2021年9月30日まで
売上高	8,773	7,579
売上原価	7,069	6,033
売上総利益	1,704	1,546
販売費及び一般管理費	1,622	1,571
営業利益又は 営業損失(△)	81	△25
営業外収益	112	103
営業外費用	38	14
経常利益	155	63
特別利益	46	28
税金等調整前 四半期純利益	201	91
法人税等	84	38
四半期純利益	117	52
親会社株主に帰属する 四半期純利益	117	52

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

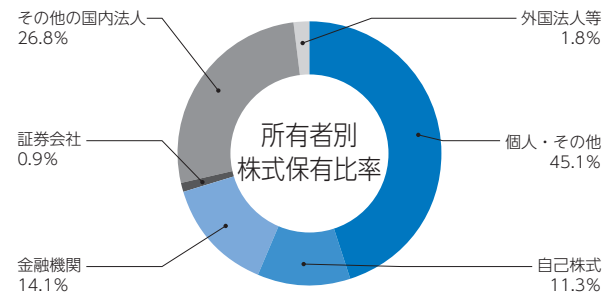
科目	当第2四半期(累計) 2022年4月1日から 2022年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2021年4月1日から 2021年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,235	1,739
投資活動によるキャッシュ・フロー	△761	△527
財務活動によるキャッシュ・フロー	△301	△282
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	△11
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,184	918
現金及び現金同等物の期首残高	5,885	7,005
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,070	7,923

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

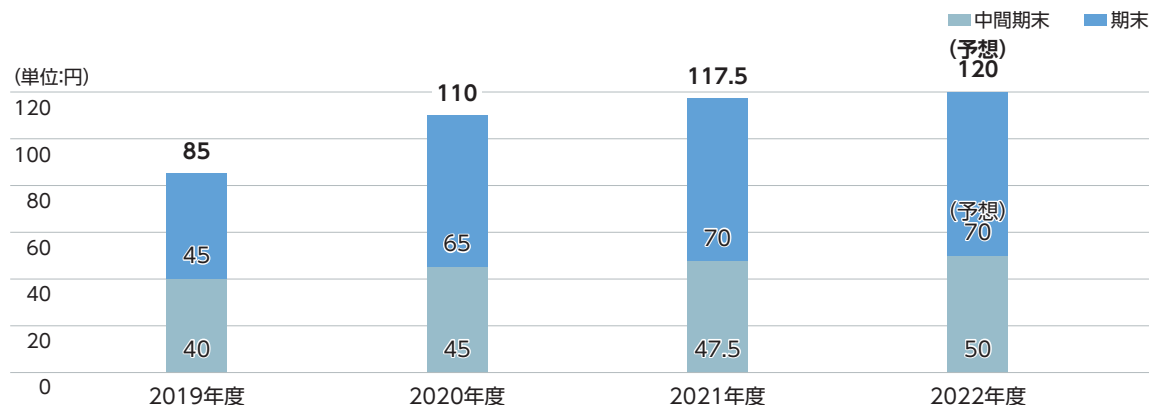
株式の状況

■発行可能株式総数	19,107,600株
■発行済株式の総数	4,776,900株
■株主数	3,177名

株主構成



1株当たり配当金



(注) 2020年度中間期末配当金の内訳 普通配当42円50銭、創立65周年記念配当2円50銭

会社概要

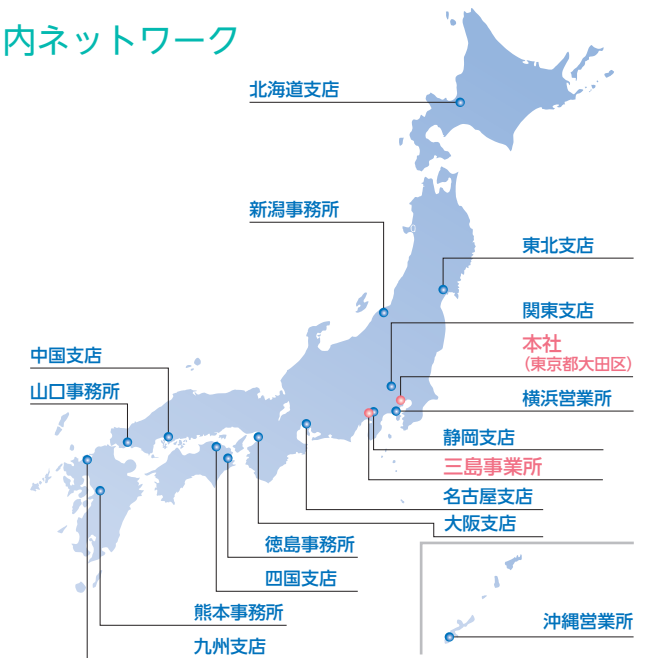
■商号	株式会社 電業社機械製作所 (DMW CORPORATION)
■所在地	東京都大田区大森北一丁目5番1号 〒143-8558 TEL 03(3298)5115
■資本金	810,000千円
■グループ従業員数	635名 (うち契約社員68名、パートタイマー37名)

取締役及び執行役員

代表取締役社長 最高執行役員社長	村林 秀 晃
取締役 上席常務執行役員	彦坂 典 男
取締役 常務執行役員	稲垣 晃
取締役 常務執行役員	濱田 耕 一
取締役 上席執行役員	青山 匡 志
社外取締役	上地 崇 夫
社外取締役	杉井 守
取締役 (常勤監査等委員)	鯉沼 博 行
社外取締役 (監査等委員)	住田 知 正
社外取締役 (監査等委員)	多田 修
上席執行役員	山岸 嗣 宏
執行役員	原 広 志
執行役員	永田 元 彦
執行役員	石澤 勇 人

ネットワーク

国内ネットワーク



国内子会社

- ・電業社工事株式会社 (本社：静岡県三島市)
- ・株式会社エコアドバンス (本社：静岡県三島市)

海外ネットワーク

海外拠点

- ・中東支店 (アラブ首長国連邦 ドバイ首長国)
- ・シンガポール支店
- ・大連事務所 (中国)
- ・米国拠点 (ヒューストン)

海外子会社

- ・DMWインド社 (本社：ムンバイ/工場：プネ)

## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 期末配当金受領株主確定日 毎年3月31日
- 中間配当金受領株主確定日 毎年9月30日
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
東京都府中市日鋼町1-1  
電話 0120-232-711 (通話料無料)  
郵送先 〒137-8081  
新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
証券代行部
- 上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード市場
- 公告の方法 電子公告により当社WEBサイトに掲載  
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(各種手続き先)

1. 株式に関する各種手続き(住所・氏名の変更、配当金振込口座の指定・変更、単元未満株式の買取請求等)につきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできません。
2. 株券電子化に伴う証券会社等の口座への振替手続きがお済みでない株式(特別口座に記録された株式)に関する各種手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
3. 銀行取扱い期間終了後の未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 株式会社 電業社機械製作所

〒143-8558 東京都大田区大森北一丁目5番1号  
TEL(03)3298-5115(代表)

## ホームページのご案内

最新のIR情報につきましては、当社のホームページ「IR情報」をご参照ください。

当社ホームページ <https://www.dmw.co.jp/>



▲TOPページ

- 富士山ライブカメラの映像を掲載しています。  
富士山のリアルタイムの映像をお楽しみいただけます。



森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用しています。



環境に配慮した植物インキを使用しています。